


南米アコンカグア遠征報告



京都府立大学山岳部
アコンカグア遠征隊2012

発表の流れ

発表者：藤井

- 隊員紹介
- 遠征計画構想
 - 遠征実施
- 課題と反省点
 - まとめ

隊員紹介

藤井良太(隊長)



河村友裕



壽榮松孝介



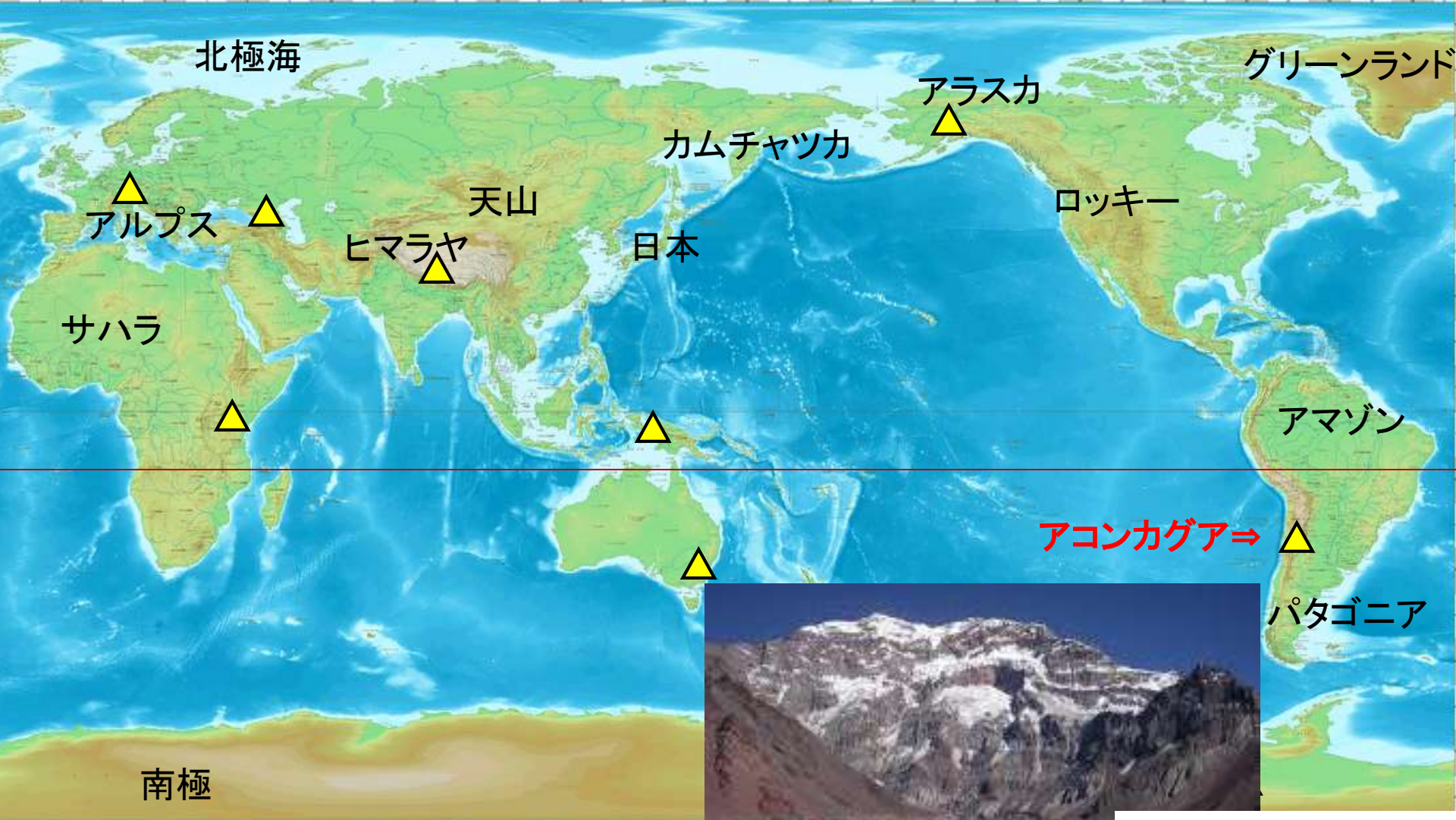
- 役割:記録、会計、保険
- 年齢:24歳
- 生命環境科学研究科
環境科学専攻修士1回生
- 登山歴 高校から
- 高所経験:
西チベット クビ・カンリ 6721m
- 海外旅行:3回

- 役職:装備、渉外、医療
- 年齢:21歳
- 生命環境学部
農学生命科学科3回生
- 登山歴 高校から
- 高所経験:なし
- 海外旅行:なし

- 役職:食糧、現地会計
- 年齢:20歳
- 公共政策学部
公共政策学科2回生
- 登山歴 大学から
- 高所経験:なし
- 海外旅行:1回

遠征本部長;牛田一成(山岳部顧問)、遠征事務局;横山義靖(山岳部4回生)

アコンカグア



アコンカグア⇒ ▲



アコンカグア (南壁)
南／西半球最高峰

遠征計画構想



京都府立大学山岳部 (KPUAC)

半世紀以上の歴史ある山岳部(2007年に60周年)

オーソドックスな登山を展開 劔岳・立山・黒部・後立山

小規模大学の割に活発 ここ20年は少人数化

山岳部としての海外登山遠征はない

個人での海外登山 (中国,アメリカ,ヒマラヤ)

⇔京都大、同志社大の山岳部の海外遠征

例) クビ・カンリ峰6721m・チャンラ峰6563m・ニレカ峰6169m

鳴沢岳遭難事故 (2009年4月)

コーチと部員2名を失う部史上最悪の事故

レベルが維持できない→冬合宿中止

自分たちの登山を見直す契機となった



学生の山登りとは何か？
時流に流されないスタイル

- 府大山岳部の立て直し・ルール作り = 危機管理
- 山登りとは何か? = 自分たちの登山を見つける

『 登りたい山に登る 』

高い山・遠い山・難しい山・深い山 ⇒ 憧れる山

もっといろいろな山がある

AAVK(関西学生山岳連盟)
大学山岳部が目指すもの '80s
6000mの未踏峰
7000mのバリエーション
8000mのノーマル

目標

- ① 南米最高峰 登頂
- ② チーム(山岳部)で取り組む
- ③ 人間的成長

高さ

難しさ

アコンカグア

遠さ

海外遠征2ヶ年計画(2010年5月~)

2ヶ年計画概要 (2010年5月～)

主な計画

2010年

GW合宿
プレ冬合宿
冬合宿

2011年

春合宿
GW合宿
夏合宿
富士山合宿
冬合宿

主な結果と評価

白馬三山縦走

雄山東尾根～立山(3日)

甲斐駒黒戸尾根～仙塩尾根 敗退(7日)

五龍遠見尾根～G0頭 敗退(3日)

鳴沢西尾根、鳴沢東尾根(5日)

北アルプス縦走・劔岳登攀(全14日間)

高所順応 2日間

★塩見岳～白根三山縦走(9日間)

- ・1年目は山岳部として標準の山行ができるように基礎体力、技術の向上を図った。南米現地偵察は行えなかった。
- ・2年目はアコンカグアを意識した登山を展開しつつ、計画書作成や遠征の準備を行なった。アイスクライミング練習はできなかった。
- ・メンバー当初の希望者は5人であったが、最終的には3人になった。

年末南アルプス縦走 7日間



春山 北ア遠見尾根 3日間



トレーニング



GW 北ア鳴沢岳 5日間



11月 富士山 2日間

遠征実施

2012年2月17日～3月19日

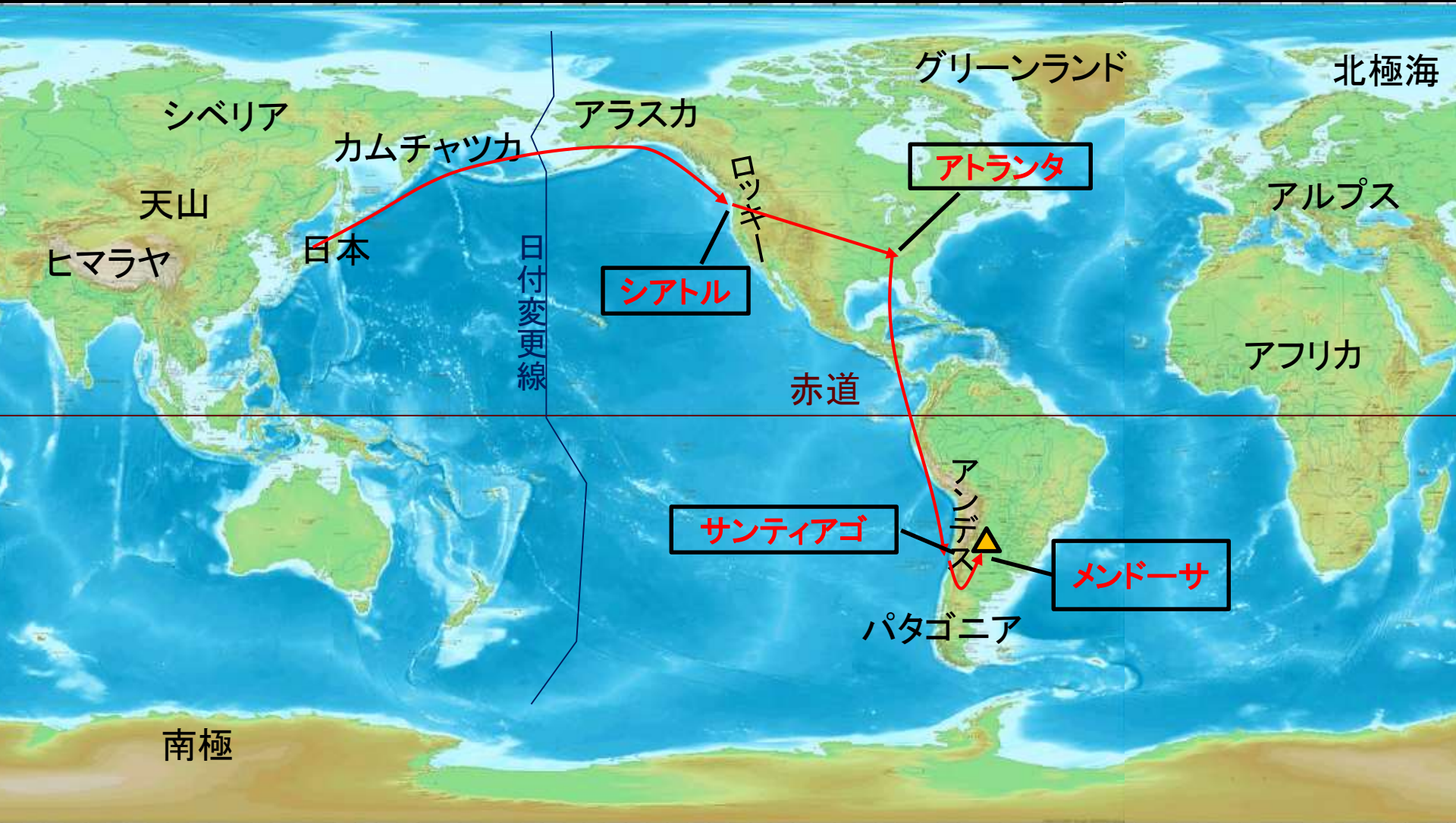


International Check-in Counters Information (North)
국제선 체크인 카운터 (북) 國際航線辦理登機手續柜台(北)

国際線チェックインカウンター(北)

関空にて 2月17日

日本 ⇒ アルゼンチン



チリ到着 2月19日午前



アンデス山脈を越える機内から



登山許可取得

エージェントの
ラウラさん
(増田氏の紹介)
によるサポート



メンドーサ観光局



買い出し



梱包



パッキング完了



- 隊荷重量(入山直前):
約198kg
(持ち込み:約138kg
現地調達:約60kg)
- ◎日本からの隊荷は全て機内預
けなどで直接持ち込んだ
- ◎チリで追加料金請求があった
- 約128kgをムーラ2頭
に預ける(バック5個)
[1頭当たり60kgまで]
- ◎登山不用物はエージェントに預
ける(着替え、ipad、辞書など)
- BCまでは約23kg /人
を各自で歩荷

入山初日

2月22日～

許可された期間は**20日間**

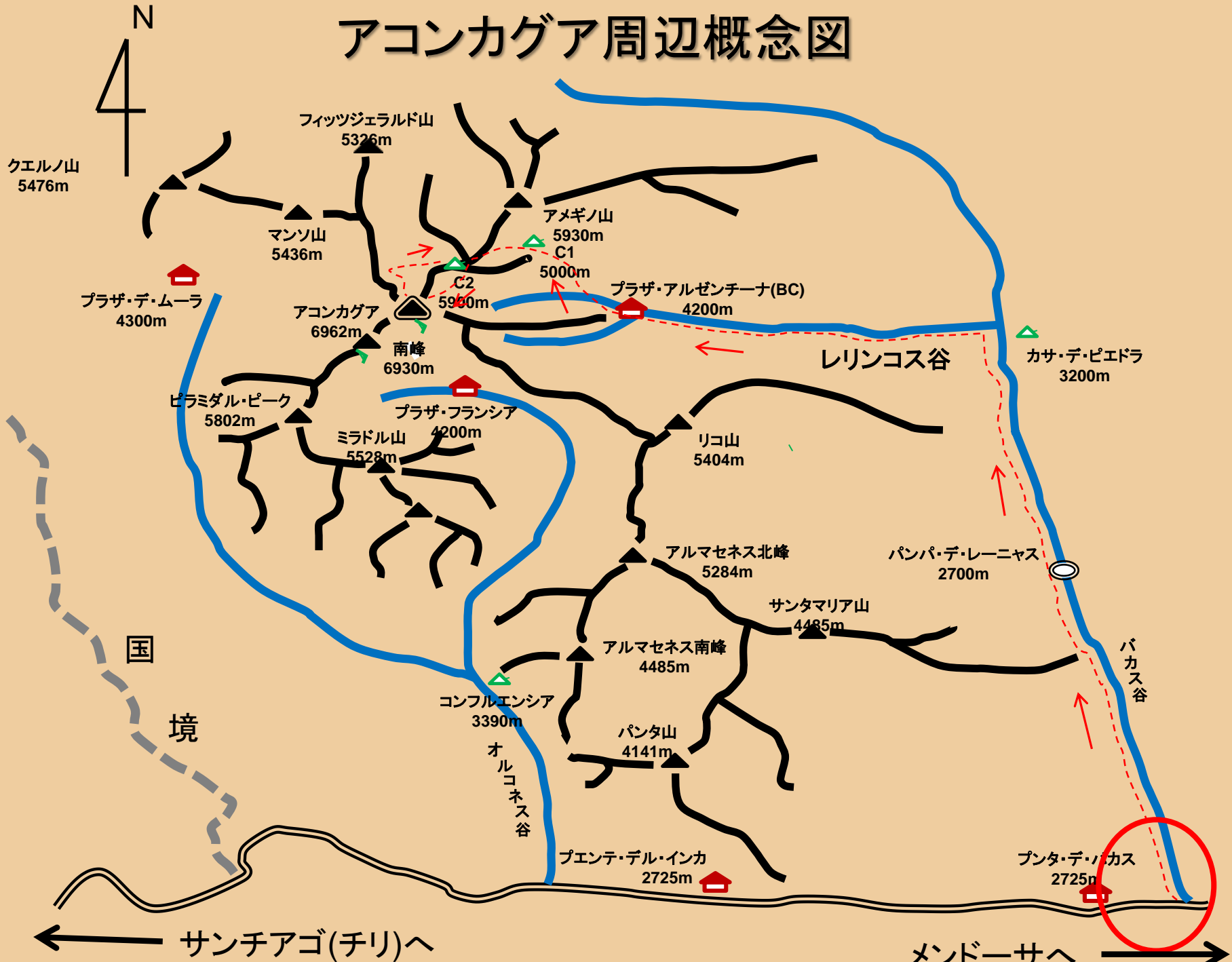
2月22日朝6時 バスターミナル





Montemido
Parque Ambiental
Aconcagua

アコンカグア周辺概念図







ひとり約23キロを歩荷

ムーラ(ラバ、馬とロバの雑種)



イグアナ(爬虫類)

現地の動物達



グアナコ(哺乳類)

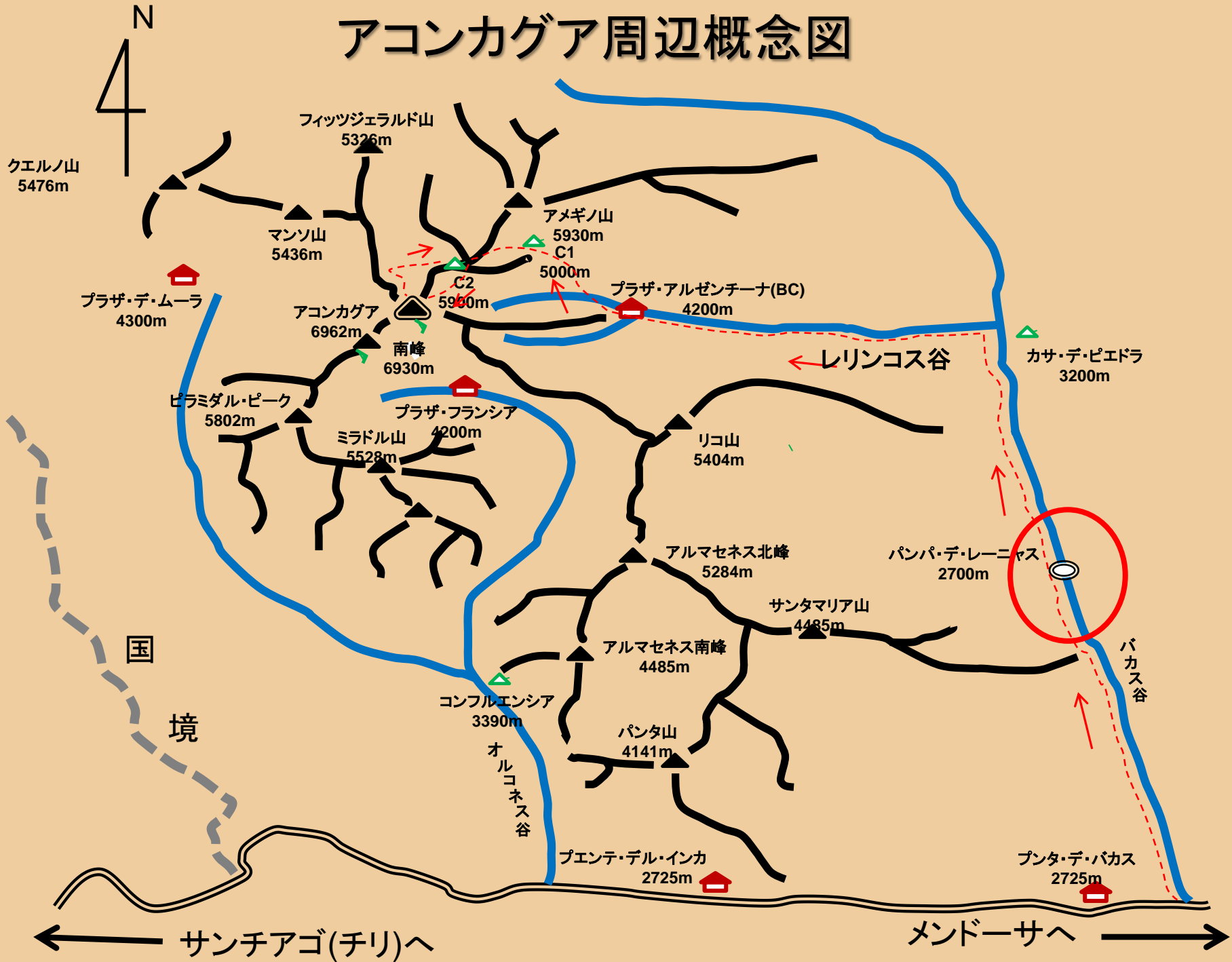


アザミと蝶



パンパ・デ・レーニャス(指定キャンプ場、2800m)

アコンカグア周辺概念図







カサ・デ・ピエドラ(指定キャンプ場、3200m)

アコンカグア周辺概念図

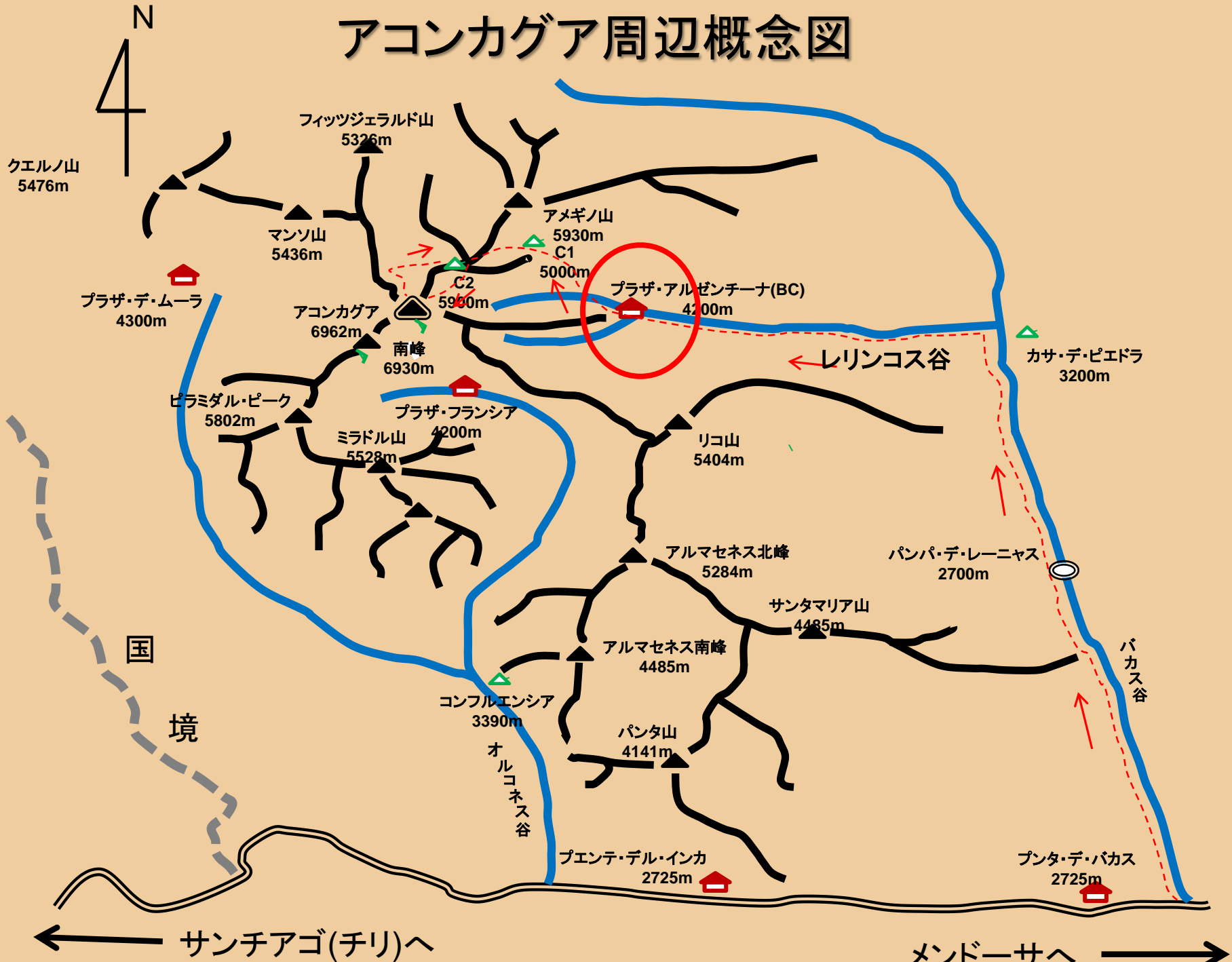








アコンカグア周辺概念図





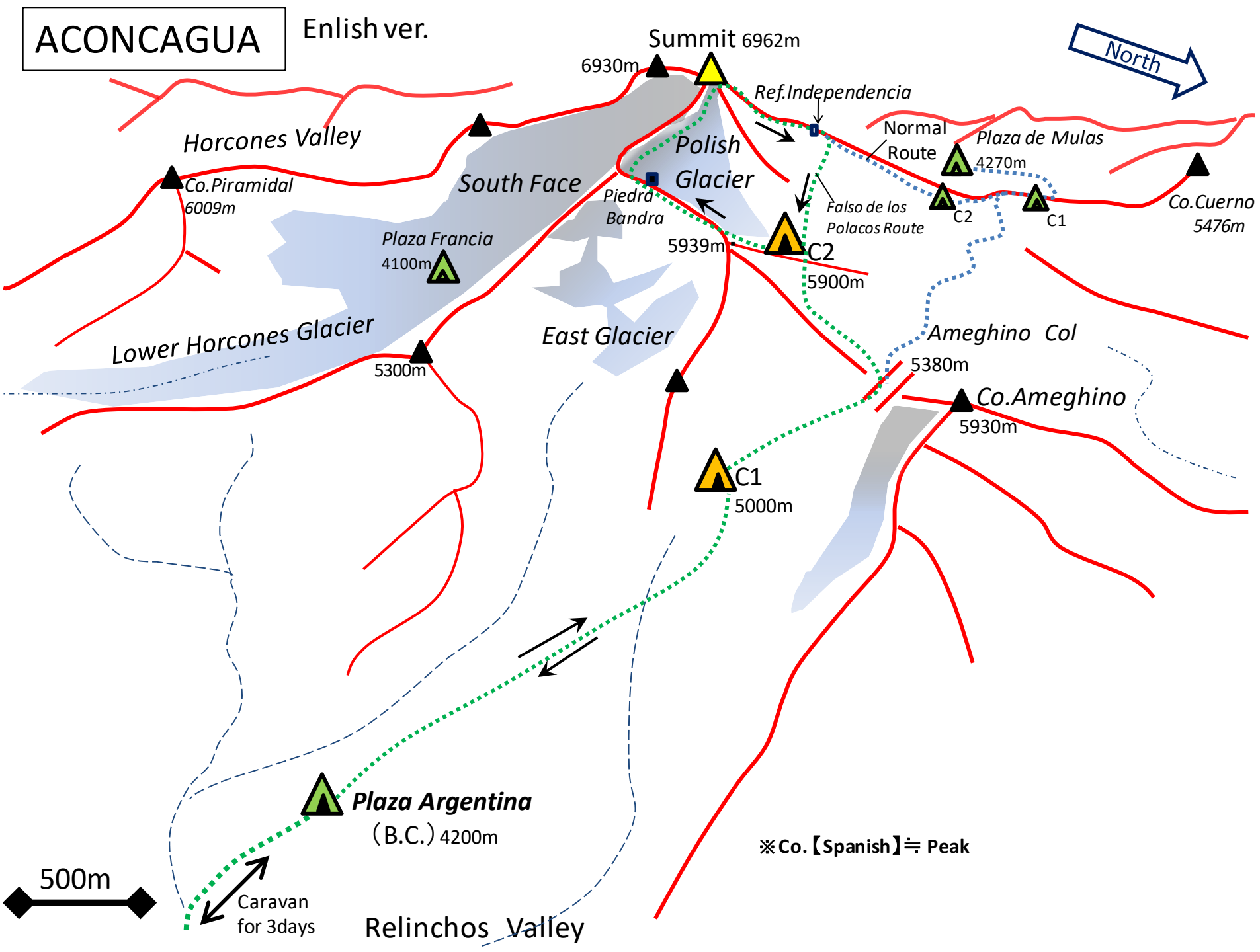
ベースキャンプ到着 2月24日





ACONCAGUA

English ver.



ベースキャンプ 4200m





アコンカグアの氷河





C1

ペニテンテス (氷塔)





キャンプ1 5000m







キャンプ2 5850m





水分摂取



調理風景



BC食



ろ過

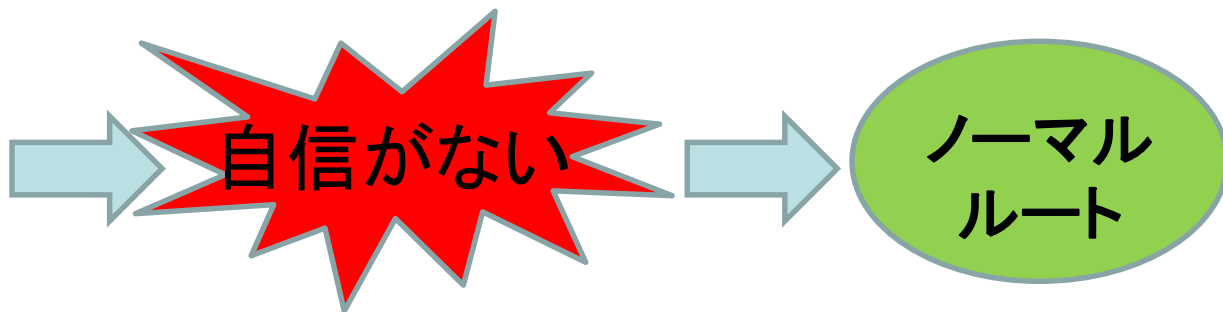


アタック食



アタックの判断 (ルートと日程)

- 好天が二日続かない
- 体調不良
- 技術
- 全員登頂



3月4日

《快晴》

C2に到着

アタック

ルートの
協議

3月5日

《強風 快晴》

ノーマルルート

の合流点まで

偵察

3月6日

《快晴 強風は

弱まる傾向》

アタックを試みるも

強風のため敗退

3月7日

《無風 快晴》

最終アタック

快晴、無風のもと

に無事登頂



1:10,000

KPUAC ACONCAGUA EXPEDITION 2012

Falco de los Polacos
~ Normal route

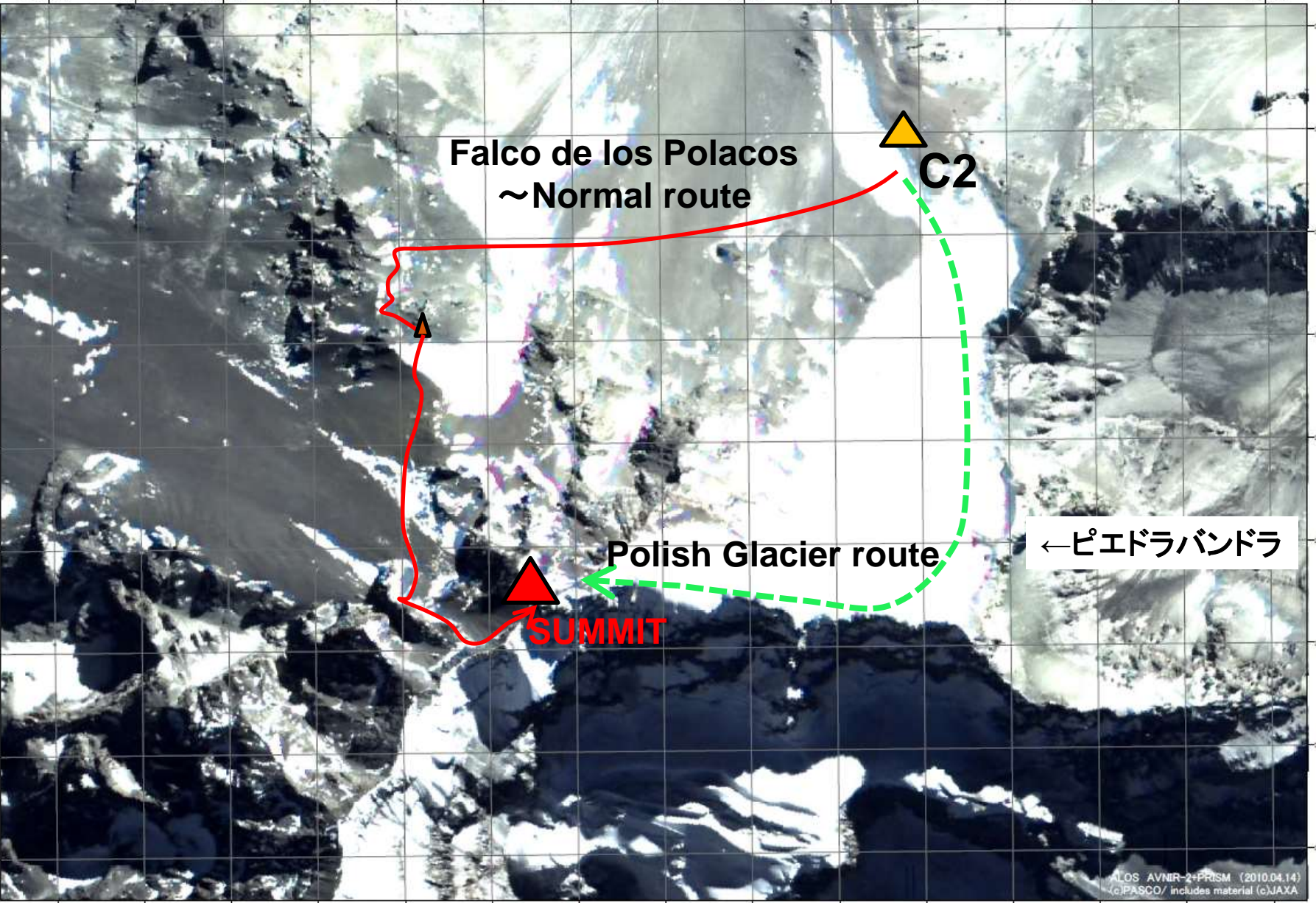
C2

Polish Glacier route

← ピエドラバンドラ

SUMMIT

ALOS AVNIR-2+PRISM (2010.04.14)
©PASCO/ includes material (c)JAXA



Falso de los Polacos ルート



朝2時起床 4時過ぎ出発

アコンカグア (北面)

山頂6962m (北峰)

南峰

ポーランド氷河ルート

6400m

6380m

インデペンデンシア小屋

C2

5850m Falso de los polacos ルート

ノーマルルート

ホトラバース

カナレータ



インデペンデンシア小屋

6380m



ノーマルルート





カナレータ入口









Filo del Guanaco





山頂6962m 現地時間12:20







TRIPLE SENSOR

NW | N

ADJUST

COMP

ALTI - BARO



10m 1hPa(mb)

6965

12:49.16

CASIO

WR100BAR

SENSOR

SW

NE

BARO

MODE

S

E

ALTI

SE



КРУАС

北面



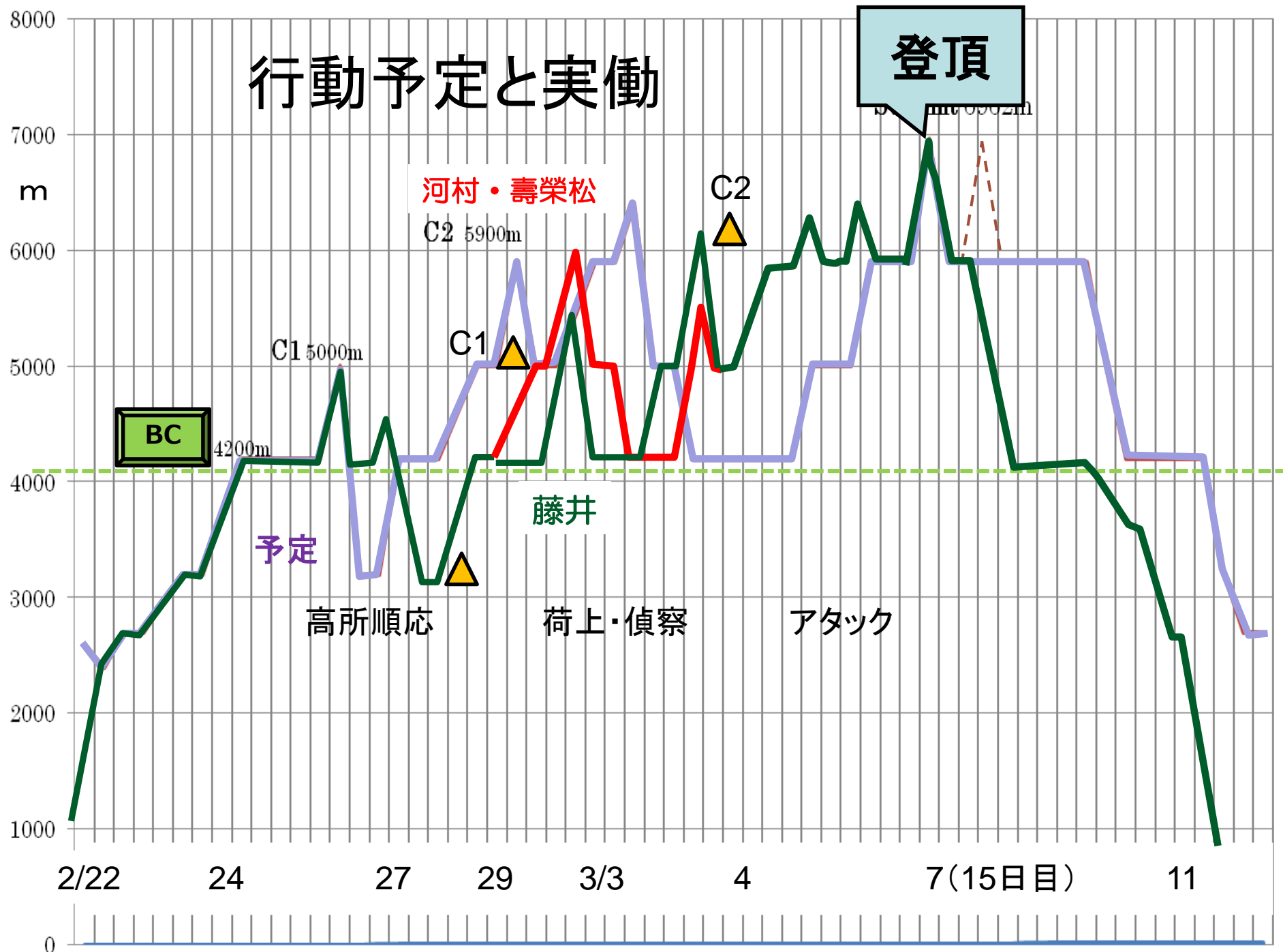
西面 南壁と太平洋



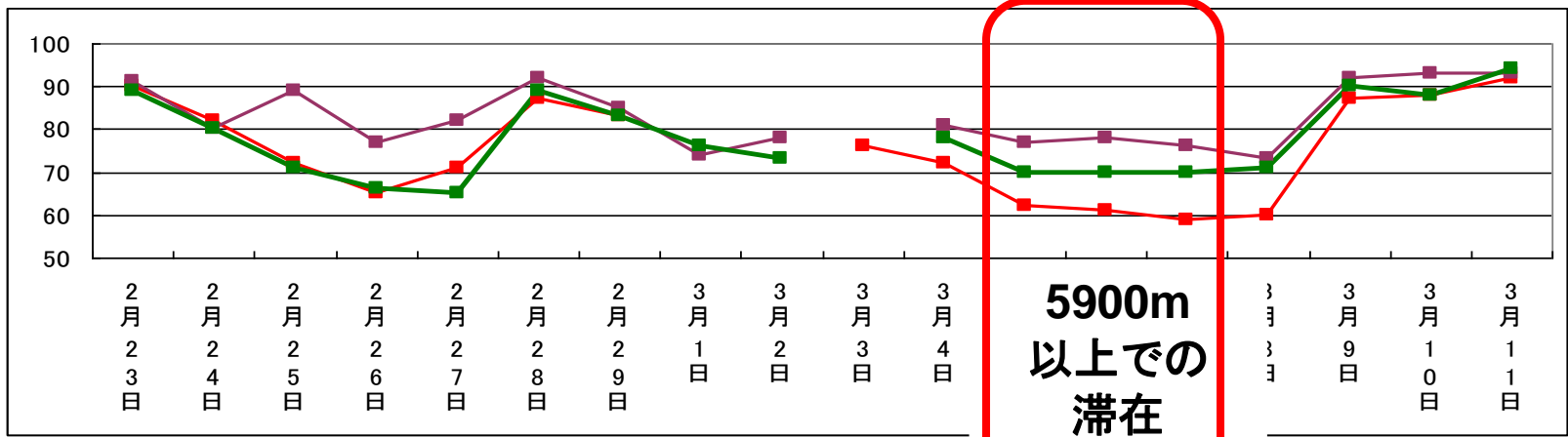


南面

行動予定と実働

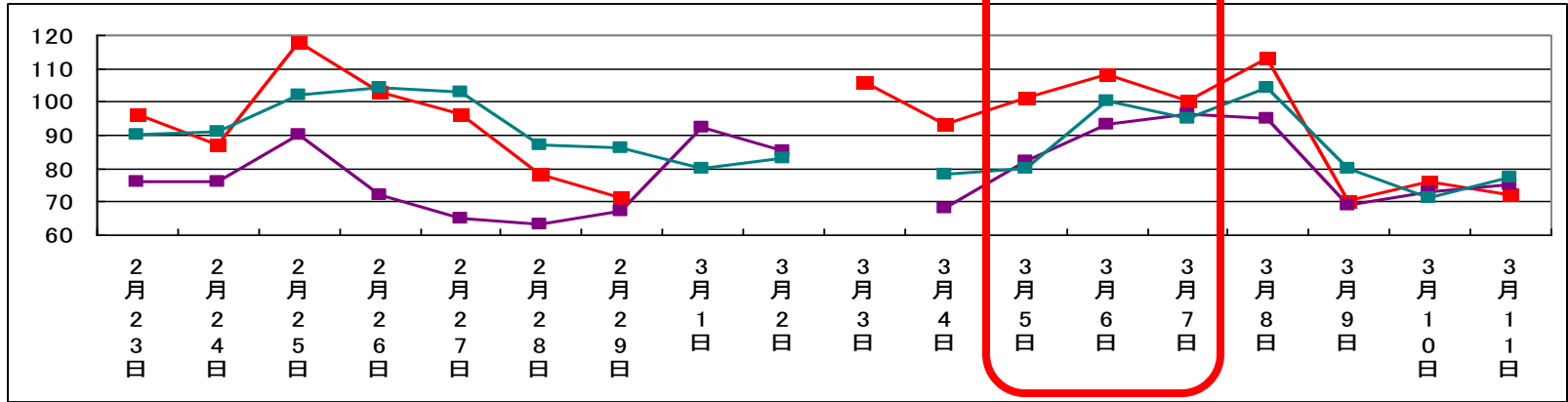


血中酸素濃度



赤：藤井
紫：河村
緑：寿栄松

血圧



ドクターチェック 血圧高い→全員、血中酸素濃度が 良→河 普通→寿 悪→藤

※全員水分を6L以上飲め、塩分控えろ、藤井はドクターストップと言われる(2/28)。

各隊員の体調、症状

藤井 不調、慢性的に軽い高山病→2/28よりダイアモックス1日半錠ずつ服用

河村 好調、高血圧、C2で頭痛→2/28~29 血圧降下剤,計1.5錠,3/6~7バファリン,計4錠服用

寿栄松 普通、高血圧、頭痛→ 2/28~29 血圧降下剤,3/4~6 ダイアモックス計1.5錠服用



3月17日

会計

収入		三人分合計 [円]	(一人当たり計)		
	個人負担資金	1,050,000	(¥350,000/人)		
	山岳会援助金	70,000			
	山岳会寄付金	570,000			
	装備現地売却	4,860			
	合計	1,694,860			
支出			〔事前予想額〕		
現 地 支 払 い	入山料	66,960	(USD300/人)	>	63,000
	エージェント・ムーラ	97,200		>	90,000
	現地購入(レンタル)装備	35,265		<	40,000
	食料(現地購入分)	24,000		≪	60,000
	燃料(現地購入分)	13,671		<	30,000
	現地通信費	89,835		>	80,000
	現地滞在費	47,343		≪	80,000
	現地移動費	7,924		<	10,000
国 内 支 払 い	航空券	660,000	(¥220,000/人)	≫	630,000
	医薬品	10,000		<	20,000
	保険料	302,940	(¥100,980/人)	>	300,000
	国内輸送	50,000		≫	20,000
他	報告費(見込み)	150,000		…	150,000
	緊急時対策費	90,880		≫	50,000
	雑費(見込み)	48,842		≫	10,000
	合計	1,694,860	(¥564,953/人)	≫	1,633,000

≫、≪;三万円以上の差

※ 右のレートで換算【USD1=¥81、USD1=AR\$4.35、(AR\$1≒¥18.6)】

反省と今後の課題

反省

- 国内手続き（大学への通知など）
- ポーランド氷河ルート 敗退
↑自信をつけるためにどうすべきだったか
- 罰金（語学力）

課題

- 在京本部と通信体制
- 府大の遠征ノウハウのまとめ（報告書）
- 普段の山登りから意識を高く
- 知識・技術・志向の交流＝自分たちでは見えないものを探す。

私たち**KPUAC**が得たもの

- 海外登山という選択肢
標高7000m近い高所の経験値（→次なる遠征）
- 府大らしさ
 - 生きて下山する **死なない山登り**
＝鳴沢岳遭難事故の教訓
（今までの課題も忘れずに）
 - 小さくても自分たちで登る、自分たちの山登り
大きな目標に向かって、努力する過程がとても大事
 - 時流に揺るがないオーソドックスな**山の総合力**
「大学山岳部」としての力をつなげていく

次なる海外遠征に向けて

- 部員集め

- 技術・ノウハウの伝承・蓄積

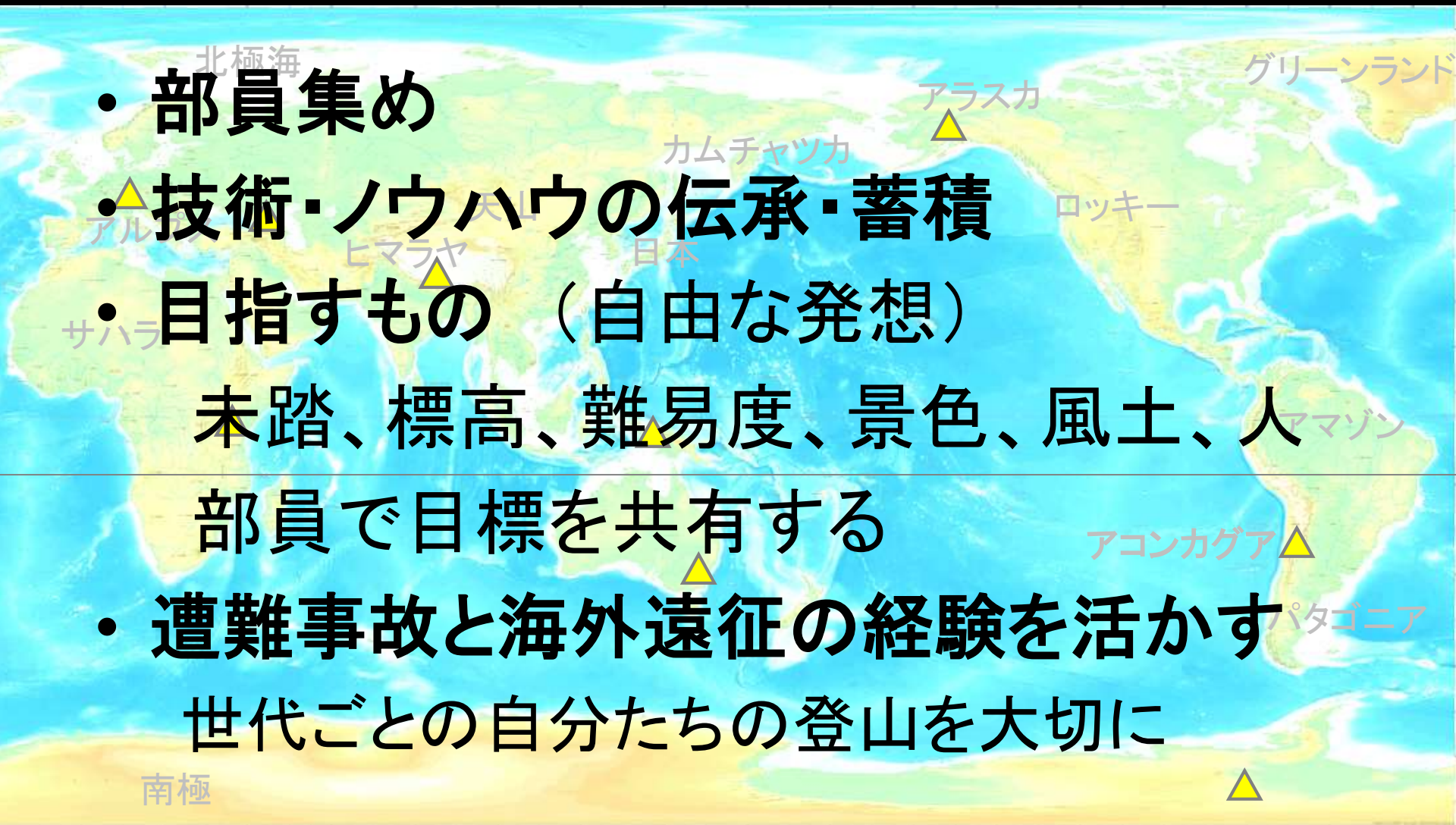
- 目指すもの（自由な発想）

未踏、標高、難易度、景色、風土、人

部員で目標を共有する

- 遭難事故と海外遠征の経験を活かす

世代ごとの自分たちの登山を大切に



ありがとうございました